

の反證とするに足る。

〔四八〕 Schlegel は護輸の在世を六八五—七一二年即ち垂拱元年より先天元年迄の間とせり、然も亦別に獨解支は六八五年に死し伏帝匄之に繼ぎ、承宗又之に繼ぎしが、流されて死し、族子護輸叛きて涼州都督を殺し、後突厥に走りて七一二年に死せりとせり、勿論此の記事は邊裔典に據りたるものなれ共、同書は此等の事實につきて一も年次を記する無し、されば此等の説は何れも氏の妄斷にして、一も根據の存するもの無し、<sup>\*\*\*</sup>Ramstedt 氏は全く Schlegel の説に従へり。

\* Chinesische Inschrift auf d. uig. Denkm. S. 19.

\*\* Ibid. S. 3.

\*\*\* Zwei uigur. Inschriften. S. 45.

〔四九〕 此の名につきては次篇三三〇頁註④參看。

〔五〇〕 舊唐書迴紇傳、冊府元龜<sup>卷九</sup>繼襲篇に「天寶初其酋長葉護頡利吐發遣使入朝、封奉義王、三載擊拔悉密、自稱骨咄祿毘伽闕可汗、(五載<sup>冊府元龜</sup>)又遣使入朝、因冊爲懷仁可汗。」

唐會要卷九十八「天寶初葉護逸標苾、襲滅突厥小殺之孫烏蘇米施可汗、未幾自立爲九姓可汗、……天寶三載三月、朝廷以逸標苾有誅烏蘇米施功、封爲封義王、及破拔悉密、自稱骨咄<sup>(咄之)</sup>祿毗伽可汗、又遣使朝貢、四載加特進、五載冊爲懷仁可汗。」

〔五一〕 Sine-usu 附近より發見せられたる磨延巖の紀功碑なり、次章及び次篇補遺二中に述ぶる所參看。

〔五二〕 新唐書拔悉密傳には、「天寶初與回紇葉護、擊殺突厥可汗、立拔悉密大酋阿史那施、爲賀獵毗伽可汗、遣使者入謝」と記せり、此の如く此の時立てられたる可汗の名は、兩傳に於て一致せざるものあれど、或は賀獵毗伽頡<sup>\*</sup>跋伊施可汗 alp bilga<sup>\*\*</sup> iltaris xayan と稱したるものを、兩傳には其の一部分宛を取りて記せるものなるべし。

\* 跋は跋の誤なるべし。

\*\* Müller は Thomsen に従ひて iltiris と讀み、Radloff は altaras と讀み、Klaproth は早く ilteris と讀み、(U-